

三條別院のご案内

三條別院に想う

【特別篇】「松募集！」のお願い

本題に入る前に、長くなるが……私が三條別院に入ったのは二〇〇九年六月で、住職に「別院には細川常徳さんがいて、声明や儀式や立花を教えてもらってこい」と言われた。ところが、細川さんは体調を崩されていて五月一杯で岐阜の高山に帰られていた。別院の平常の仏花は、先輩たちが立てていて、私も教えてもらいながら、試行錯誤で立てていた。細川さんは、高山の山中から切り出してきた花材を送ってくれたり、十一月のお取り越し報恩講には花講さんを連れてやってきて、三條の弟子？（森駐在の奥さんなど）も加勢



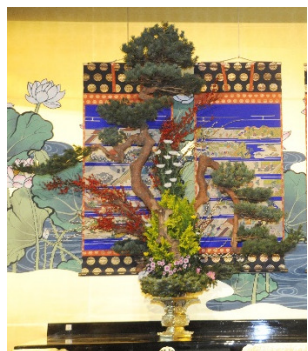
して、仏花を立てていただいた。二〇一一年の七月に細川さんが急逝され、十一月に迫ったお取り越しの仏花をどうするか緊急の課題となり、列

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

座の先輩が教区内で立花を得意としている住職等に無理にお声がけをして、各寺院でも報恩講のお忙しい中、花を立てていただいた。その際にお願ひした方たち、特に第十五組本龍寺の白鳥賢住職を中心として「報恩講立花スタッフ」として、現在まで継続してお願ひしている状況である。会議を通していろいろと意見や別院の歴史をお聞かせいただく。かつては別院に御門徒を中心とした花講があったのだが、別院の法務の立て直しのために職につかれた菅原氏がいる時に、「荘厳は列座がするものである」ということで、自身で花を立てるようになったということだ。そのおかげで、私たち列座は下手ながらも、教区の方や時には立花講習会で指導していただきながら、仏花を立てられるのだが、事務や習礼に追われるお取り越し報恩講直前においては、とても花を立てる余裕がない……。いろいろな課題が山積で、「立花を担う人の育成が緊急課題である」という結論をだそうとしたら、立花スタッフから、「その前に花材の育成が緊急課題



だ！人がいても花材がないと立てられないぞ！」と厳しい指摘を受けた。前号でもご案内したように、三條別院のお取

り越しでは中尊前・祖師前を五具足で荘厳する。そのためには、花材の松（特に五葉松）を大量に必要とするのだが、こ

れまで立花スタッフが何とか調達したり、推進員の方が寄付してくれたり、私の地元の植木の町、保内の御門徒からいただいたり、いろいろ工夫して松をいただいてきたのだが、二〇一五年の宗祖御遠忌法要を経て、確保することが困難になっている。松畑をつくる計画も進行中なのだが、何しろ時間がかかる。さて、ここからが、本題なのだが、**寄付していただける松や、伐採する予定の松等（特に五葉松）がありましたら、ぜひ使用させていただきます。**「相談の上直接つかがいますので、よろしくお願ひします。」

▲写真は宗祖御遠忌法要における仏花（中尊前五具足、御絵伝前、祖師前五具足（紙幅の都合上掲載できません）ですが、御代前と北余間の仏花もあります。赤松の木（ほく）に五葉松の枝を結び付けて花を立てていきますので、「寛」のように、**大量の松を必要とします。**

○次回の「三條別院に想う」は、村手淳史氏（第二十組光圓寺）より「執筆いただきます。」



院 議 会 臨 時 会 報 告

五月二日召集の院議会臨時会において、下記議案が可決されました。

第一号議案 常議員の互選について
第二号議案 三条別院境内地総合整備事業計画に係る財産処分について

第三号議案 三条別院境内地総合整備事業計画に係る境内地の著しい模様替えについて

第四号議案 三条別院境内地総合整備事業計画に係る御依頼担当基準について

三条別院境内地総合整備事業計画が中心の議題になっておりますので、別紙で詳細を報告させていただきます。

ケネス・タナカが再びやってきた！

三条別院では「地域に開かれた別院」をめざし、現代の問題と仏教についての公開講座を年一回開催しています。

今年（五月十四日開催）の講師は、昨年引き続きケネス・タナカ氏（武蔵野大学教授・日本仏教心理学会会長）。代表的な著書は『アメリカ仏教』『仏教と気づき』『アメリカ流マインドを変える仏教入門』などです。「仏教・真宗を日本や欧米の現代社会にどのように伝えるか」を課題とされている先生です。昨年は、アメリカでどのように仏教が受け入れられたか、また日本よりも結果が求められるアメリカの現代仏教についてご講義いただきましたが、今年は「伸びるアメリカ仏教と心理学との協力・日本にも到来？」という講題で、主に仏教と心理学がどのように関わるか



についてご講義いただきました。講義の中では、仏教ジョークとスライドを交えながら、世界的に認知が広まっているマインドフル瞑想がどのようなものかとのお話や、西洋の心理学者や

心理療法家たちが取り入れた仏教の事例、またアルバート・エリスの論理療法を仏教の四法印に応用した思考の転換、また先生が作られた絵本をご紹介いただくなど、幅広く心理学と仏教の関りについて解説いただきました。今回の公開講座では約八十名の参詣者が集まり、昨年と同様に質疑応答も活発で、多くの参詣者が疑問や課題、意見を持って聴講されていたことを感じます。その中でも「精神的な問題を抱える現代人に、現代の僧侶が十分に応えているとは言えない」、「苦しんでいる人に仏教を伝えきれしていない」との意見もあり、昨年と同じく「危機感」を覚える方も多くいらっしやるのだと思います。今後も三条別院では現代の問題と仏教について挑戦していきます。お楽しみに。（森尻）

春の別院奉仕研修開催

五月二十六日に、春の別院奉仕研修会が行われました。教区推進員と別院の庭講を中心として五十名近い参加者があり、天候にも恵まれ、境内地・庭の清掃にも力が入りました。庭講は昨年十月の講習会から、「浄土の荘厳としての庭」づくりを行っています。また、本堂向拝清掃等、普段



清掃しきれないところを念入りに掃除していただきました。現在、幼稚園新学舎建設に伴う別院境内地総合整備計画に関する事務等が例年より多く、頭を悩ませることが多いですが、身体をうごかして清掃奉仕をしなから「荘厳の手伝いをしていなのだ」と考えると「私たちの仕事とは、本来こういうものではないか」と清々しい気持ちになってきます。改めて年度末・新年度の事務に取り組みたいと思います。有難うございました。（斎木）

宗 祖 御 命 日 の 集 い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会を開いております。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

- ◆日 時 六月二十八日（水）午前十時より
- ◆会 場 三条別院 本堂
- ◆お勤め（御命日）日中法要

文類偈 行四句目下
念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首
回向 願以此功德

◎今月の法話講師

安原陽一氏（第十二組 安浄寺）【第十七章】



▲昨年一月より、『歎異抄』に聞く」をテーマに、各講師一章ずつ担当してお話しいただいています。五月は中原龍氏で第十六章の「回心」をめぐっての話でした。回心は「ただひとたび」と言われるが「回心」を何度もすべきだという断悪修善の考えは、道徳に近く、宗教はそれが行えない者のためにあると話されました。

◇新年度の講師一覧は次号でお知らせいたします

定例法話会

毎月十三日の前門首の（命日（両度の命日））に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◆日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より（一時間程度）

◆場所 二条別院 旧御堂

◆講師

五月～七月 永寶晴香氏（第十組浄敬寺）

五月「遇うべきひと」（終了）

六月「遇うべきこと」

七月「聞くこと、歩むこと」

▲五月から七月は、報恩講実行委員会法要部会委員で、報恩講お待ち受け音楽法要における女性僧侶による助音の指導も行っている永寶氏にお話しいただきます。



その他の講座案内

○別院声明教室（全五回・途中参加可能）

〔月一回、午後六時～八時〕

二月二十一日（火）〔済〕、三月二十一日（火）〔済〕

四月十八日（火）〔済〕、五月十六（火）〔済〕、六月二十日（火）

講習内容 真宗大谷派勸行集（赤本）

講師 長田 暢氏（第十六組 善興寺）

参加費 五〇〇円／回

○別院書道教室

〔月二回第二、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威氏（新潟県書道協会理事）

月謝 二七〇〇円（テキスト代含む）

○立花講習会（別紙案内有り）

日時 七月二十日（木）十時～十六時

講師 吉原善生氏（池坊峯月流副家元）

参加費 花材代 六〇〇円、冥加金五〇〇円

随時募集中

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注）

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講（清掃講）〔毎月十三日〕

二条別院庭講は本年も様々な行事を予定しております。

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか？

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている「門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

二条別院から御本尊（絵像）をお迎えして、聞法会を開催しませんか？輪番と随行一名でお勤めと法話を行います。集会所や、門徒宅等で開催できますので、会場や時間などはご相談ください。



は、ご相談ください。

◆編集後記◆

私事であるが、五月二十六日は祖父の命日であり、私が大学四年の時に亡くなった。私が生まれたとき、既に祖父の妻（私の祖母）は亡くなっていて、それから三十年以上独り身で過ごした。といっても私の父と母と、孫たちと一緒に暮らしていたが、父とも母とも孫たちともいつも喧嘩していた。子どもながらにいつも不思議だったのは、「祖父は誰に弱音を吐いているのか」ということだった。

私事であるが、最近、居場所がなく感じる（深刻ではありません）。職場はあくまで職場であり、まわりが家庭を持ち始め、今まで居場所だった実家は、なんだか居場所ではない感じがしてくる。そんな時、「私は誰に弱音を吐けばいいのか？」と感じ、祖父のことを思い起こしながら、夜の街にでかける。バーのマスターに「仕事でもプライベートでも、あつちこつちで揉めてしまつて、調子が悪い」と弱音を吐くとマスターは「調子がいい」といろいろ見えてきてしまつて、あちこちで揉めるんです」と励まされた。その調子のまま、別の日に酔つてマスターにからんでしまい、また別の日にマスターに「仕事でも、プライベートでもあつちこつちで揉めてしまつて、調子が悪い」というと、マスターは「本人が調子が悪いといっているんだから、間違いない調子が悪いんですよ」と言った。ますます居場所がない。祖父は誰に弱音を吐いていたのだろうか？

（斎木）